

イギリスにおける図書館学教育の現状

Education for Librarianship in Britain Today

渡 辺 茂 男

Shigeo Watanabe

Résumé

The author visited a good number of library schools in the United States of America and the United Kingdom as his own spontaneous programme during his sabbatical leave for a whole year from August 1971 to July 1972. In the U.K. he included in his visits the Library Association, Library Schools at Polytechnic of North London, London University College, Ealing Technical College, Birmingham Polytechnic and College of Librarianship Wales, Aberystwyth besides a number of public libraries, school libraries, college libraries, education authorities, etc.

In this report he summerised facts about education for librarianship in the U.K. during the last 20 years in various aspects such as social background, development of education for librarianship, function of L.A., kinds of library schools, courses, curricula, teaching methods, teaching staffs, researches and students. Also he added his commentary to each topic and impression as a whole.

序

- I. 社会的背景
- II. 図書館学教育の発展
- III. 図書館協会の役割
 - A. Chartered Librarian (A.L.A.)
 - B. 専門職試験
- IV. Schools of Librarianship
 - A. 図書館学校の種類
 - B. コースの種類
 - C. コース一覧 (学校別)

渡辺茂男：慶応義塾大学文学部図書館・情報学科教授

Shigeo Watanabe, Professor, School of Library and Information Science, Keio University.

D. カリキュラム
E. 教育方法及び教員
F. 研 究
G. 学 生

V. 結 論

序

この論文の筆者は、1971年8月より1年間の特別研究期間を与えられ、同年8月より1972年1月末までアメリカ、1972年2月より同年7月末までイギリスの図書館・情報学の教育事情を訪問調査した。

イギリスにおける図書館・情報学の分野における教育は、1945年以降の教育改革の一部として急速な拡張発展を示し、特に1960年以降の進歩には目覚ましいものがある。エリート教育に主眼がおかれた旧教育から、高等教育の普及という新教育への急速な変化の過程の中で、過渡期における教育の形態が、さまざまな様相を示しているのと同様に、図書館、情報の専門家の教育も、水準、カリキュラム、学位、履修年限などさまざまな面で多様性に富んでいる。筆者は6カ月に亘る調査を、事実と印象の両面からこの報告にまとめたものである。

I. 社会的背景——戦後の教育改革

第2次世界大戦終了に至るまで、非常に封建的色彩の強かったイギリスの教育は、1944年のEducation Actにより、革命的な近代化が行なわれた。まず(1) Ministry of Education (文部省) が設けられ (後年 Dept. of Education and Science となる) 文部大臣に、イングランドおよびウェールズにおける教育の監督権が与えられ、(2) 教育行政の実権 (権利と義務) が、地方自治体に与えられた。即ち、County と County Borough Council に教育行政の権利を与え、その地域のあらゆる形態の公共教育の施設の維持及び運営を義務づけたのである。(3) 法的に義務づけられた公共教育とは、Primary (初等教育) (2才～11才以上) Secondary (中等教育) (12才～19才) 及び Further education (義務教育後の正規の高等教育を除く一般教育) の三段階と定義し、義務教育の年限を、5才から15才と規定した。(この上限の15才は、数年後に16才に改訂された。) 更に、地方自治体の運営する中等学校の授業料制度を廃止した。その他、私立学校への援助、宗教教育、衛生保健、給食、

特殊児童の教育、教職員の給与の支払いなどが、地方自治体に義務づけられたのである。更に特筆すべきことは、義務教育終了後の青年のために、フルタイムあるいはパートタイムの職業教育のためのカレッジ、文化活動、リクリエーションのための教養施設 (例、図書館など) の設置を義務づけたのである。

現在に至るまでにこの Education Act は、何回か部分的に改訂補足されているが、公共教育の普及及びレベル向上という基本方針は変わらず、戦後の教育改革の大きな指針となったのである。

従って、1945年以降、現在に至る時期は、イギリスの歴史の中で、教育革命という前例のない時期といわれている。¹⁾ “1945年より1951年の間に、Emergency Training Scheme (緊急教育計画) により、30,000人の教員が養成され、教員数は、200,000人に達した。……1969年には、教員養成機関の年間卒業生の数は、1939年の5倍に達した……また1969年度までに、8,500校の初等、中等学校が新設された。1950年以降、それまで、明確に“等級別”されていた Grammar, Technical, Modern の3階級の中等学校の等級が解消されはじめ、Grammar-Modern,あるいは Comprehensive など総合中等学校が設立されはじめ、1965年の政府の要請により、1968年までに多くの地方自治体が、中等学校の総合化に踏み切っている”。

ここで若干の補足的説明が必要と思われるが、1945年に教育改革がはじまった次元での中等教育は、ある意味では、イギリスの教育の階級性あるいはエリート教育に重点が置かれた封建性を如実に示していたともいえる。その次元での中等学校は、Grammar, Junior Technical, Senior Elementary (Secondary Modern) の3等級に分れ、この順に上中下の社会的評価が与えられていた。この3種類の学校に生徒を等級別するために、11才になった初等学校の生徒に標準テストが行なわれ、その試験の成績によって進学する中等学校の等級が定められたのである。しかも、どの等級の学校に進学するかで、ほぼその生徒の将来所属する社会的階層が決ってしまうほど

の格差が一般的に認識されていた。従って大器晩成型の子どもには、ほとんど大学その他への上級進学が閉ざされてしまうほどの欠陥もあった。このような教育的欠陥や社会的偏見を是正するために、1950年以降、中等学校の総合化が進められたのであるが、伝統に抗する改革は進展せず、1965年労働党内閣が積極的施策をとるまで具体的な総合化はなかなか進まなかったのである。現在、完全な総合化に至る過程として、6種類の Comprehensive school (総合学校) の変型がとられているが、現実には、依然として三等級の中等学校か、あるいは、その変型が根強く続いている。“三等級”の変型とは“Bilaterals” (複合学校) と称して、この三等級の二種類を複合して作られた、例えば Grammar+Technical あるいは、Secondary Modern+Grammar などの組み合わせである。

何れにしても、Grammar School は、G.C.E. (General Certificate of Education) に合格するように生徒を教育するのが目的である。この G.C.E. は、1917年より施行されているもので Ordinary Level と Advanced Level があり、15才から18才の間に受験でき、一科目ずつの受験で、通常5科目 (内2科目が A. Level) で大学の入試の科目あるいは専門協会への入会試験が免除されるのである。つまり、この G.C.E. が、社会の指導者層への門戸となるのである。

しかし、幸いなことに、中等学校の複合化、総合化によって、純粹の Grammar School 以外でも G.C.E. のための教育が行なわれるようになり、この“教育の自由”化と、特にそれ等の学校における教員の努力により、複合学校、総合学校の生徒の中から、多くの G.C.E. 合格者を出すようになった。

更に、1965年以降、G.C.E. よりも一般的に低いレベルの C.S.E. (Certificate of Secondary Education) が、地域単位の標準テストで与えられるようになり、この C.S.E. の Grade I が G.C.E. の O level に相当するものと評価されるようになった。大学や Polytechnic の入学資格に要求される G.C.E., C.S.E. は、これらの中等学校の科目試験を指すのである。また、School Leavers, Six Formers, Non-Graduates などアメリカの教育用語や、日本の教育用語では聞き馴れない特殊な用語は、このように様々な変型を持つ中等学校の卒業者を意味するのである。

中等教育終了者に対する Further Education (高等教育) もさまざまな面で改革された。即ちカレッジにお

けるフルタイムの“サンドイッチ”コース (社会的実務と学習の期間を交互にはさんでいる) や、パートタイムの学習制度が大幅に普及され、また、職業教育を目的としてきた、これらカレッジは、増強に増強を重ねながら、抜本的な組織変更が行なわれた。1956年の再編成に始まったカレッジの改革は、(1) 大きな10校は、C.A.T. (College of Advanced Technology) への昇格を経て、1966~67年に大学となり、(2) Regional College の多くは1969年、地方毎の統合を経て、高度の専門教育を目指す Polytechnic となり、(3) Area College は、Borough 単位のカレッジとして定着し、(4) 夜間授業あるいは講習程度を行なっていた学校が、Local あるいは District College として充実されるようになった。そればかりでなく、教育及び研究内容の充実に伴い、(1) の工科大学あるいは大学の工学部は、Dip. Tech (Diploma in Technology) の学位を、(2) の Polytechnic は、C.N.A.A. degree (Council of National Academic Awards) を与える権限を Royal Charter により認められたのである。これまた、イギリスの教育史において、大学以外の教育機関が学位を与える学術的権威を正式に認められたのは、初めてのことである。

同様に、大学の急速な普及発展も下記の年表²⁾ から容易に推察できるので詳述は避けることにする。

Oxford	Twelfth century
Cambridge	Early thirteenth century
Durham	1832
London	1836
Victoria University of Manchester	1880
Wales	1893
Birmingham	1900
Liverpool	1903
Leeds	1904
Sheffield	1905
Bristol	1909
Reading	1926
Nottingham	1948
Southampton	1952
Hull	1954
Exeter	1955
Leicester	1957
Sussex	1961
Keele	1962

イギリスにおける図書館学教育の現状

Newcastle	1963
East Anglia	1963
York	1963
Essex	1964
Lancaster	1964
Kent at Canterbury	1965
Warwick	1965
Aston in Birmingham	1966
Bath University of Technology	1966
Bradford	1966
Brunel	1966
City College (London Univ.)*	1966
Loughborough University of Technology	1966
Surrey	1966
Salford	1967
“Open University” University of the Air	1969

* Formerly the Northampton College of Advanced Technology (但し、イングランドとウェールズのみ)

このように第2次大戦後における目覚ましい教育の普及は、大きく三つの原因に由来している。“(1) 人口の急増とそれにつれて就学人口および就学年限が急増したこと。(2) 史上前例を見ない程の国民の大学教育に対する希望が高まったこと。そして最も根本的な原因としてウィンストン・チャーチルのいった‘世界の未来は、高度に教育された国家のものである。’という社会的な認識である。”³⁾

以上簡単に触れたのは、公共の教育制度改革についてであって、もう一つの伝統である Eton 校, Harrow 校, Rugby 校など、いわゆる名門の私立学校である “Public School” については、一言で要約すれば、国全体の教育制度に調整させる意図はあっても、上流社会の教育を支えてきた自負は、当分の間ゆるぎもしないというのが、社会的実感である。

II. 図書館学教育の発展

教育制度改革、公共教育改革の波は、正規の学校教育以外にも当然大きな影響を及ぼし、Education Acts の中のもう一つの大きな柱であった社会教育の振興が、公

共図書館の急激な発展の原動力となった。学校教育の発展で1960年代が、特に目覚しかったと全く同様に、図書館をはじめとする社会教育の分野においても、1965年に発効された Public Libraries and Museum Act が、イギリスにおける凡ゆる図書館活動を法的に推進させたのである。この法律により、はじめて公共図書館普及の責任が、Secretary of State for Education (文部行政委員会) のものとなり、地方自治体に、“網羅的且つ有効な図書館サービス” を提供することが義務づけられたのである。しかもこの“網羅的且つ有効な図書館サービス” は、Report of the Ministry of Education (文部省) Working Party により具体的な基準が示されたのである。しかも、この法律及び基準を実行に移すため議会側に Library Advisory Councils が設けられ、文部省に、Library Advisors が任命された。その結果1960年代に数十の公共図書館が新築され、新しい地域図書館網が組織され、大学図書館が数多く新增築され、L.A. の本部が、National Lending Library for Science & Technology が、National Central Library がという具合に、これまた革命的発展の様相を見せたのである。

このような図書館の急増は、当然専門教育を受けた図書館員を必要とした。上記の Working Party は、当時存在した3,472名の図書館員有資格者の数に対して、網羅的且つ有効なサービスを展開するためには、7,051名の有資格者が必要であり、年間400名以上の新卒の図書館員を必要とすると指摘したのであった。図書館学校の増設、拡充が施設、資料、教員の各面で急速に行なわれたのはいうまでもない。

1950年、たった1名の専任教員と数名の学生だけではじめられた Birmingham の図書館学校は、“存続だけが当初の目的”⁴⁾であったが、1962年には、新築された12階の高層ビルである Polytechnic の数階を占めるようになり、1971年には、Department of Polytechnic として、20名の専任教員と300名になろうとする学生を擁するまでに発展した。

“図書館学校は、1964年に設立された。校長と3名の講師と12名の学生で、ライドルの谷を見下すbronbadanとよばれる小さな田舎屋敷で最初の授業が始められた”⁵⁾。その同じ図書館学校が、僅か7年後の1971年には、50名の専任教職員と300名の学生を擁し、独立の堂々たる図書館と、独立の大講堂と、新築中の3階建の校舎、研究室を持つ、College of Librarianship Wales に成長しているのである。

この2校は、図書館学校全体の急激な発展を象徴的に示しているのだが、実際に別表に示したように、London University College の図書館学校 (1919年) を除いて、ほとんどすべての学校が戦後に設立されたものであり、しかも、そのまた半数以上が1960年代に新設されたか、現状に組織変えされたのである。図書館学校の学生数は“1960年に300名であったのが、1965年までの僅か5年間には、2,000名になり”⁶⁾ 現在、2,627名に達したのである。

ABERDEEN: School of Librarianship,	1967
Robert Gordon's Institute of Technology, Aberdeen.	
ABERYSTWYTH: College of Librarianship Wales, Aberystwyth	1964
BELFAST: School of Library and Information Studies, The Queen's University of Belfast	1964
BIRMINGHAM: Department of Librarianship, Commerce Centre, Birmingham Polytechnic	1950
BRIGHTON: School of Librarianship, Brighton Polytechnic	1947
GLASGOW: Department of Librarianship, The University of Strathclyde, Glasgow	1964
LEEDS: Department of Librarianship, Leeds Polytechnic	1946
LIVERPOOL: Department of Library and Information Studies, Liverpool Polytechnic	1962
LONDON: School of Librarianship, Ealing Technical College	1964
LONDON: School of Librarianship, Polytechnic of North London	1969
(現在の組織となる)	
LONDON: School of Library, Archive and Information Studies, University College London	1919
LOUGHBOROUGH: School of Librarianship, Loughborough Technical College	1946
MANCHESTER: Department of Librarianship, Manchester Polytechnic, Faculty of Commerce	1946
NEWCASTLE: Department of Librarianship and Information Science, Newcastle-upon-Tyne Polytechnic	1947
SHEFFIELD: Post-graduate School of Librarianship and Information Science, University of Sheffield	1963

III. 図書館協会の役割

A. Chartered Librarian (A.L.A.)

1877年に設立された Library Association は、設立当初より専門職の確立のために努力してきたのであるが、特に1898年、ヴィクトリア女王の勅許により憲章を認められ、その憲章によって、協会の目的と権限を公けに明示したのである。この憲章の中の二つの条文が、図書館員教育の目的と権限を明らかにしている。

「図書館員の地位と資格の向上のために、あらゆる方策を講ずること。」

「図書館員試験を課し、専門職免許を交付すること。」

この二条文により L.A. は、他の諸国、例えばアメリカ合衆国、カナダ等における図書館協会の例に見られない特殊な権限を持つことになったのである。しかし、この制度は、イギリスにおいては既に慣習的なものであり、工学、法律、経理等の専門職は、それぞれの協会により、専門資格を認定されているのである。この慣習は、専門的能力の基準設定や資格審査を含めて、専門職全体を、既に資格を得、実務についている専門家の集団が統制するという点でもある。従ってこのような協会の正式会員として登録されるためには、当然、協会の課する審査をパスすることが条件となる。L.A. は、そのために下記のような条件を課し、その条件をみたしたものを、Chartered Librarian として登録し、A.L.A. (Associate of Library Association) の証明を発行する。

- (1) 専門職試験に合格すること。
- (2) Chartered Librarian の指導監督の下で、3年間の図書館実務経験を持つこと。この3年間の中1年間は、専門職試験合格後の1年間でなければならない。(図書館学校のフルタイムコースの年限は、1年間に限りこの実務年限1年間に換算される。)
- (3) 2年以上 L.A. の会員であること。

このように統一された条件を課することにより、L.A. は、専門職の能力と地位の向上に努めてきたのであるが、協会が資格の認定を行ない、しかも、その中で、試験と実務経験の両者を課するという点においても、この制度は英国独特の慣習であり、遠く、徒弟制度、ギルド制度の歴史に逆る伝統に基づくといってもよい。

B. 専門職試験

L.A. の専門職試験の受験資格は、図書館学校のフルタイムの課程を履修したものが原則とされているが、これまでの慣習と過渡期の方策として、後述する Second-

dary education (中等教育) の科目試験をパスしたものであれば、図書館学のパートタイムの履修あるいは、独学でも受験できることになっている。但し、The Post-Graduate Professional Examination は、正規の図書館学の課程を経たものでなければ受験資格はない。また前述したように、試験は、L.A. の会員のみに対して行なわれる。

専門職試験は、次の試験の組み合わせによる。

General Professional Examinations

- (a) (i) The Part I Examination
- (ii) The Part II Examination

あるいは、

- (b) The Post-Graduate Professional Examination

(a) (ii) は大学卒あるいは、non-graduate (中等学校卒)、(b) は、大学卒のみのための最終試験となる。この専門職試験に関して細目にわたる規則が設けられているが、主なものを抜萃すると次のようである。

- Part I Examination の受験者は、下記の受験資格証明を提出しなければならない。(a) 5科目の G.C.E. (General Certificate of Education)^{注1} の合格証明。中1科目は、英語を含み、2科目は Advanced Level であること。あるいは (b) 5科目の Scottish Certificate of Education の合格証明。中1科目は英語、3科目は、Higher grade であること。あるいは (c) 5科目の Northern Ireland Senior Grammar School Certificate の合格証明。中1科目は英語、2科目は A Level であること。あるいは (d) L.A. の受験資格試験または First Professional Examination の合格証明。あるいは (e) Ordinary National Diploma^{注2}。または (f) 5科目 (英語を含め) の G.C.E. の Ordinary level あるいは、C.S.E.^{注3} の Grade I の合格証明を添えた Ordinary National Certificate または Higher National Certificate^{注4} を取得したもの。(C.S.E. の Grade I は、G.C.E. の “O” level に相当する。) あるいは (g) L.A. の試験審査委員会が認めた上記以外の資格証明。(例えば、イギリス自治領よりの受験者の場合は、Cambridge Overseas School Certificate, Cambridge Higher School Certificate 等が、この範疇に入る。)
- Part II Examination は、Part I の合格者のみに対して行なわれる。Part I は、次のような証明を提出したものには、免除されることがある。(a) イギリス

自治領その他の外国の図書館協会の試験により与えられた専門職資格。あるいは (b) 外国の大学において取得した図書館学の diploma または degree。図書館学以外の学位は対象とならない。

- The Post-Graduate Professional Examination は、L.A. の会員で、英国に所在する大学の degree または、Council for National Academic Awards の degree (通常 B.A.) の取得者あるいは試験審査委員会の認めた外国の大学の degree の取得者あるいは、それと同等の資格を有すると認められた者で、LA の認可した図書館学校の Post-Graduate Course を履修した者に対してのみ行なわれる。
- L.A. の会員で、LA の認める英国の大学における図書館学の課程を履修した者は、履修証明を提出することによって、専門職試験を免除される。(つまり、大学の図書館学課程の最終試験が、LA の専門職試験に代るのである。)
- 試験は、夏と冬の年2回行なわれる。

以上が、Chartered Librarian として正式に登録され、A.L.A. の称号を与えられるための専門職試験制度の概要であるが、L.A. は、A.L.A. の称号の他に、更に上級の称号として F.L.A. (Fellow of The Library Association) の資格を設けている。この称号は、A.L.A. の資格取得後5年間の専門職経験を経た者が、上級専門職の能力を明確に示すオリジナルな論文を提出することにより、審査の結果与えられるものである。

IV. Schools of Librarianship

A. 図書館学校の種類

英国における高等教育の歴史的事情から、現存する15の Schools of Librarianship (以降、図書館学校と便宜的に総称する) は、University, Polytechnic, Technical College の3種類のややレベルを異にする高等教育機関の中に設置されている。即ち、4校が大学に設置され、1校が大学に併設された単独の College of Librarianship であり、残りが地方自治体の経営する7校の Polytechnic と、3校の Technical College の中に設けられている。

まず大学レベルでは、London University, University of Sheffield, University of Strathclyde (Glasgow, Scotland), Queen's University of Belfast (Northern Ireland) の4校とも1年間の大学院専攻課程により Post-Graduate Diploma in Librarianship を与え、更

に London は, M.A., M. Phil., Ph. D. を, Sheffield は, M.A. in Librarianship, 及び M. Sc. in Information Studies を与えている。The Queen's University of Belfast は大学院課程の diploma コースで Master of Library Studies を, また論文により M.A., Ph. D. を与え, Strathclyde は, 論文により, M.A., M. Sc., 及び Ph. D. を与えている。更に学部課程で B.A. を与えている。

単独の図書館大学としてユニークな存在を注目されている College of Librarianship Wales は, Wales 国立の University of Wales の College であり, Post-Graduate Diploma in Librarianship の他, 更に論文により Master's Degree を与えている。その他, University of Wales の他学部との関連において, Joint Honours degree of Bachelor of Librarianship を学部課程で図書館学専攻の学生に与えている。

Polytechnic に設けられた図書館学校の場合には, Polytechnic of North London が, London University に審査を依頼して Post-Graduate Diploma を与える例外の他, この North London を含め, Birmingham, Leeds, Manchester, Newcastle の4校の Polytechnic 及び Loughborough Technical College の5校が B.A. (C.N.A.A.) を与え, 残りの Polytechnic 及び Technical College は, 前述の L.A. の試験に備える教育のみ行なっている。

次に, これらの図書館学校の与える学位と L.A. の試験制度との関連であるが, 大学の Post-Graduate Diploma in Librarianship の取得者は, Post-Graduate Professional Examination が免除され, B.A. Librarianship の取得は Pt. I, Pt. II の試験が免除され, 両者とも他の条件をみたせば Chartered Librarian (A.L.A.) の資格が与えられる。また, L.A. と図書館学校の個々の話し合いにより, 後者に L.A. の試験が依拠されているケースも多い。つまり図書館学校で Professional Courses (Pt. I, Pt. II) をとったものに対しては, 学内で L.A. の試験が行なわれるのである。Pt. I, Pt. II のいずれか一方あるいは両者共に学内で行なわれるか, あるいは, L.A. が行なう試験を受けなければならないかは L.A. の図書館学校に対する評価による。

B. コースの種類

前述したように L.A. の専門職試験が, 大学卒の図書館学校卒業生のみ対象とする Post-Graduate Professional Examination と, 大学卒あるいは中学校卒を

問わず, またフルタイム, パートタイムの学生を問わず (独学者も含めて) 対象とする General Professional Examinations: Pt. I, Pt. II. の二種類に分れているため, 現在の図書館学校におけるコースは, いきおいこの二種類の資格試験に基礎をおいた形式で設けられている。

(1) Professional Courses あるいは Association Courses

L.A. の試験が直接目的であるから, 主として中学校卒を対象とする Pt. I, Pt. II のための2年間コースと, 大学卒を対象とする Post-Graduate Professional Examination の1年間コースである。Polytechnic あるいは Technical College のほとんどすべてがこのコースを提供している。受講者は, 学位は与えられず, L.A. の試験が, 学内で代行されるか否かは, 前述したような申し合せによる。

(2) B.A. degree (Librarianship) of the Council for National Academic Awards Course.

B. Sc. (Information Science) of the Council for National Academic Awards Course.

規模の大きい Polytechnic が与える学位取得のためのコースであって, 3年間の課程で与える学校と4年間の課程で与える学校がある。それぞれの学内事情によってこの年数は決められるのだが, 4年間の場合は, 1年間の実習, あるいは, 調査研究の期間を含めている場合が多い。Birmingham, Leeds, North London, Manchester, Newcastle の各 Polytechnic が B.A. (Librarianship) を与え, Leeds のみ B. Sc. をも与えている。この学位を取得したものは, LA の Pt. I, Pt. II の試験を免除される。

(3) University degree courses:

(a) Bachelor of Librarianship (University first degree course

College of Librarianship Wales の学部課程のコースで, University College of Wales の他学部の中より副専攻を選び, それを併せとることで, Joint Honours degree (Bachelor of Librarianship) が与えられる。3年間あるいは4年間。

(b) Joint Honours degree course

Loughborough Technical College の例で, Loughborough University of Technology の科目を併せとることで, Bachelor's Degree of the University が与えられる。3年間。Glasgow の場

合をほぼ同様で4年間。

(c) Diploma in Library and Information Studies course

The Queen's University of Belfast の例で、最初の1年間に大学の BA, BSc あるいは PoSc (Econ.) の科目を併せとり、2年目に図書館学のみとる。2年間。Diploma と称するが前記 Bachelor の学位を与えられる。

以上 (a) (b) (c) が学部課程のコースであるが、それぞれの学内事情により、学位の名称およびコース内容の強調点を異にしているが、いずれも L.A. の Pt. I, Pt. II の試験は免除されている。

(d) Post-Graduate diploma courses

図書館学以外の専攻の大学卒を対象とする1年間の図書館学・情報学の大学院課程で、入学資格として通常1年間以上の図書館実務経験が要求される。この経験のないものは、入学しようとする図書館学校の斡旋で、入学前に1年間の実務経験を持つことが可能である。Diploma の名称は、専攻分野の強調点の差異により、Diploma in Library and Information Studies, Diploma in Librarianship, Diploma in Archive Studies などのように若干異なる。Belfast, London, Polytechnic of North London (London Univ. の試験により) Loughborough Tech. College (Loughborough Univ. of Tech. との関係により) が、Post-Graduate Diploma を与えている。

(e) Master courses

Post-Graduate Diploma Courses とほぼ同様の入学資格及び在学年限(大学院1年間)で、Master の称号を与える。Master of Library Studies (Belfast), M.A. in Librarianship (Sheffield), M. Sc. in Information Studies (Sheffield) であるが、前2者の入学資格は、他大学の図書館学校の場合と同様、人文・社会科学の学部卒業生であるが、後者は、理・工学関係の学部卒業生に限られる。また M. Sc. in Information Studies は、Institute of Information Scientists 及び L.A. によって認められた学位である。

以上 (d) (e) の degree を取得したものは、L.A. Post-Graduate Professional Examination が免除される。

(f) Thesis courses

前記 (d) (e) の学位取得者で、十分な年限の図書館・情報学関係の実務(研究調査を含む)を経験した者を対象とする1年間以上の大学院における研究課程で、オリジナルな研究論文を提出し、その成果によって与えられる学位である。M.A., M. Phil., M. Sc., Ph. D., College of Librarianship Wales, Belfast, Glasgow, London, Sheffield の大学が与えている。この論文つまり学位によって、L.A. の F.L.A. の称号が与えられる場合が多い。

C. コース一覧(学校別)

ABERDEEN: School of Librarianship, Robert Gordon's Institute of Technology, Aberdeen.
Association courses (Pt. I, Pt. II, Post-Grad.)

ABERYSTWYTH: College of Librarianship Wales, Aberystwyth. Association courses (Pt. I, Pt. II)

University degree courses.

Joint Honours degree of Bachelor of Librarianship (Univ. of Wales).

Post-Grad. Diploma in Librarianship (Univ. of Wales)

Thesis course: Master of Librarianship

BELFAST: School of Library and Information Studies. The Queen's University of Belfast.
University of Belfast.

Diploma in Library and Information Studies:
2 years for non-graduate, 1 year for graduate.

Master of Library Studies (M.L.S.)

Thesis courses: M.A. and Ph. D.

BIRMINGHAM: Department of Librarianship. Commerce Centre, Birmingham Polytechnic.

Association courses (Pt. I, Pt. II, Post-Grad.)

B.A. Degree in Librarianship (C.N.A.A.): Four-year sandwich course.

BRIGHTON: School of Librarianship, Brighton Polytechnic.

Association courses (Pt. I, Pt. II)

GLASGOW: Department of Librarianship, The University of Strathclyde, Glasgow.

University degree courses:

Bachelor of Arts (in the School of Arts and Social Studies with Librarianship as the First Principal Subject)

Post-Grad. Diploma in Librarianship

Thesis courses: M.A., M. Sc., and Ph. D.

LEEDS: Department of Librarianship, Leeds Polytechnic
Association courses (Pt. I, Pt. II)
B.A. Degree in Librarianship (C.N.A.A.): 3 year course
B. Sc. Degree in Information Science: 3 year course

LIVERPOOL: Department of Library and Information Studies, Liverpool Polytechnic
Association courses (Pt. I, Pt. II, Post-Grad.)

LONDON: School of Librarianship, Ealing Technical College.
Association courses (Pt. I, Pt. II, Post-Grad.)

LONDON: School of Librarianship, Polytechnic of North London
Association courses (Pt. I, Pt. II, Post-Grad.)
B.A. Degree in Librarianship (C.N.A.A.): 4 year course.
Post-Grad. Diploma in Library and Information Studies (London University degree)

LONDON: School of Library, Archive and Information Studies, University College London.
University degree courses:
Post-Grad. Diploma in Library and Information Studies
Post-Grad. Diploma in Archive Studies.
Thesis courses: M.A., M. Phil., and Ph. D.

LOUGHBOROUGH: School of Librarianship, Loughborough Technical College.
Association courses: (Pt. I, Pt. II, Post-Grad.)
University degree courses:
Bachelor's (Honours) degree of Loughborough University of Technology

MANCHESTER: Department of Librarianship, Manchester Polytechnic.
Association courses (Pt. I, Pt. II, Post-Grad.)
B.A. Degree in Library Studies (C.N.A.A.): 3 years

NEWCASTLE: Department of Librarianship and Information Science, Newcastle-upon-Tyne Polytechnic.
Association courses (Pt. I, Pt. II, Post-Grad.)
B.A. Degree in Librarianship (C.N.A.A.)

SHEFFIELD: Post-Graduate School of Librarianship and Information Science. University of Sheffield.
University degree courses:

M.A. in Librarianship
M. Sc. in Information Studies
Thesis courses: M.A., M.Sc., and Ph. D.

D. カリキュラム

前述したように図書館学校のコースが, (1) Association Courses (2) B.A. (C.N.A.A.) Courses (3) University Joint Honours degree courses (B.A.) または Diploma Courses (4) Post-Graduate Diploma Courses あるいは Master Courses, (5) Thesis Courses の5段階に分れているので, カリキュラムも, いきおい, この5段階に沿って考えざるをえない。概略していえることは, (1) の Association Courses のカリキュラムは, 当然のことながら L.A. の Examinations Syllabus にストレートに基づくものであり, (2), (3) の Bachelor Courses のカリキュラムは, L.A. の Pt. I, Pt. II の Syllabus の内容を包含して, 個々の図書館学校の特性を加味したものであり, (4) の Post-Graduate Courses のカリキュラムは, LA の Post-Grad. Professional Examination の Syllabus の内容を包含して, そたぞれの特性を強調している。(5) Thesis Courses の内容は, カリキュラムというよりも, それぞれの図書館学校が最も強調している主題分野を調査研究の対象としていることはいうまでもない。従って, 例を挙げれば, University では, London が, 伝統的な図書館学と Archive を強調し, Sheffield が, Information Science を, 主たる研究と教育の対象としているし, Polytechnic では, North London が, 多人数の教員を擁してあらゆる領域を網羅しているし, Brighton あるいは Leeds が Information Science に傾斜し, Loughborough の児童関係が著名であるなどである。このように各校が, 伝統と新しい研究の両面から特異性を打ち出そうとしているのは, L.A. の Syllabus に基礎をおく一つの面と対比的な, もう一つの特徴といえよう。

いずれにしても, L.A. の Syllabus が, 英国の図書館員教育のカリキュラムの中で, 最も大きな比重を占めているのは事実である。

(1) Syllabus of Professional Examinations

1. General Professional Examinations

この Syllabus は, Pt. I と Pt. II から成り, Pt. I は, 次の4科目で, 試験は1科目3時間の受験時間が割り当てられ, 全科目, 同時に受験しなければならない。

Pt. I の科目:

イギリスにおける図書館学教育の現状

1. The library and the community.
2. Government and control of libraries.
3. The Organization of knowledge.
4. Bibliographical control and service.

Pt. II の試験は、Pt. I 試験の合格後に 6 科目以上 (1 科目 3 時間) を選択受験しなければならない。この 6 科目は、同時に受験してもよいし、別時期に分けて受験してもよい。6 科目は、List A から 1 科目のみ、List B から 3 科目以上、List C から 1 科目以上を選択する。

Pt. II の科目：

List A

1. Academic and national libraries.
2. Special libraries and information services.
3. Public (municipal and county) libraries.

List B

11. Indexing (Information storage and retrieval) (double paper)
13. Practical indexing (classification and cataloguing)
21. Bibliography (double paper)
22. History of libraries.
31. Dissemination of information.
32. Library service to young people (double paper)
33. Hospital and welfare library services.
34. Reference and information service.
35. The Promotion of library use.
36. The Library and local history.
37. International and comparative librarianship.
91. Archive administration and records management.
92. Palaeography and diplomatic.

List C The bibliographical organization of the following subject fields：

101. Language and literature.
201. Historical studies.
203. Geographical studies.
303. Education.
304. Social sciences.
401. Fine arts (excluding Music)
402. Music.
506. Agriculture.

507. Medicine.

508. Science and technology.

上記の中 (double paper) とあるのは、その科目が 2 部に分れていて、各部受験時間 3 時間ずつで、2 部そろってパスしたときのみ合格と認められ、但し合格すれば、2 科目として計算される。

2. Post-Graduate Professional Examination

この試験は、5 科目の必修科目と、2 科目の選択科目より成り、必修の 5 科目の中 2 科目は、演習成績により評価採点され、残りの 5 科目は、試験により同時に合格しなければならない。

Section A. 必修科目

- G 1. The Library in society (one 3-hour paper)
- G 2. The Management of libraries (one 3-hour paper)
- G 3. Classification and cataloguing (one 3-hour paper)
- G 4. Practical classification and cataloguing (演習成績)
- G 5. Subject bibliography (演習成績)

Section B. 選択科目

- G 6. Historical bibliography (one 3-hour paper)
- G 7. History of libraries (one 3-hour paper)
- G 8. Analytical and descriptive bibliography (one 3-hour paper plus 50% の演習成績)
- G 9. Modern book production (one 3-hour paper)
- G10. Indexing, abstracting, and information retrieval (one 3-hour paper)
- G11. Bibliography and librarianship of children's literature (one 3-hour paper)
- G12. Library service for young people (one 3-hour paper)
- G13. Archive administration (one 3-hour paper)
- G14. Palaeography (one 3-hour paper)
- G15. Hospital and welfare library services (one 3-hour paper)
- G16. International and comparative librarianship (one 3-hour paper plus 50% の演習成績)
- G17. Library services for science and technology (one 3-hour paper)
- G18. Literature and librarianship of local history (one 3-hour paper)
- G19. Other papers

以上が専門職試験のシラバスの科目であるが、このシラバスは、更に科目毎に単元が詳細に設定され、更に、科目の内容、範囲に関して図書館学教育の関係者が共通

の理解を持つために、科目全体及び必要な単元について、註釈 (Annotation) が付されている。この註釈は、L.A. のシラバス委員会が、各科目の専門研究グループの助言によって製作するものであり、図書館学、情報学の進展

に伴ない随時改訂され、改訂の内容は、L.A. の出版物を通じて発表される。

シラバスの科目毎の詳細な内容を例によって示せば、次のようである。

Detailed Syllabus

Definitions

Throughout this Syllabus the following definitions apply:

Academic libraries—The Libraries of universities, university colleges, and all other institutions forming parts of, or associated with, universities and other institutions of higher education which have students.

Public libraries—Rate-supported libraries, whether Municipal or County, open to the general public.

Special libraries—All libraries which are not academic, public, or national libraries.

Library materials—Books, periodicals, pamphlets, reports, micro-forms, maps, gramophone records, tapes and all other audio-visual records.

Annotations

The Syllabus is set out in the left-hand column below. On the right-hand side will be found a column headed “Annotations”. These constitute a gloss on those parts of the Syllabus which the various Study Groups found to require elucidation, limitation or definition. The Syllabus is stated in broad terms with the intention of achieving a maximum life: the Annotations are an interpretation in the light of current knowledge and conditions, and they will be amended by the Board of Assessors on the advice of Study Groups from time to time. Such amendments will appear in the L.A. RECORD and in subsequent editions of the *Students' handbook*, etc.

1. General Professional Examinations Part I

Syllabus

Paper 1. The Library and the community (compulsory 3-hour paper)

History of libraries and librarianship in the British Isles during the nineteenth and twentieth centuries.

The library in society, its aims and functions. The kinds of libraries and the services appropriate to different kinds of libraries: national, academic, public and special.

Annotations

Questions set in the Part I Examination will normally relate to British practice predominantly.

The general aim of this Paper is to put the library into its social context, showing the growing needs for it and how it attempts to meet those needs.

The social function of the library—relationship of libraries to other media of communication and major influences in society, e.g. education, use of leisure, censorship, provision for research. Some comparisons with other countries are desirable.

Syllabus

Library co-operation in all its aspects.

Professional and other associations connected with librarianship.

Annotations

National, regional, local schemes of stock-building, service, interlending, storage. Schemes within subject groups, e.g. education, medicine, engineering. International exchange and loan. Comparison with significant schemes of co-operation in other countries.

No more is required here than a knowledge of the functions of the various societies, such as The Library Association, Aslib, National Book League, the bibliographical societies, the British Council, I.F.L.A., F.I.D., Unesco, and their contributions to the community.

Paper 2. Government and control of libraries (compulsory 3-hour paper)

Government, management and finance of libraries. Staffing and division of work.

The aim of this Paper is to deal with the practical conduct of the institutions which have evolved as the result of the considerations covered by Paper 1.

Questions will be set on the general principles involved and may require illustration by the practice in particular kinds of libraries.

Government includes the body responsible for the control of the library and any relevant legislative provisions.

Management includes both principles and methods of library administration.

Finance includes all aspects of the source and control of income and expenditure.

Staffing includes the principles of personnel management: staff establishments: professional and non-professional duties: recruitment, and in-service training.

The bibliographical aspects of book selection are dealt with in Paper 4.

Stock-control; selection; order and accession methods of library material; maintenance of stock. Administration and facilities of, and admission to, the departments of libraries.

2. General Professional Examinations Part II

Syllabus

List A, Papers 1-3

Annotations

The Papers in List A are concerned primarily with British practice, although candidates are expected to have some knowledge of relevant developments abroad which are making significant contributions of international interest. This implies that candidates will be expected to have paid some attention to important work done outside the British Isles, and to reveal this in their answers where appropriate.

List A. Paper 1. Academic and legal deposit libraries (3-hour paper)

The history, roles and functions of academic and national libraries.

History refers to the historical background of current institutions in so far as the study helps in understanding the institutions and clarifying their responsibilities.

The role of the library refers to all of its social contexts, both to the institutions it serves and the society in which it exists.

Government: finance, organization, administration.

Candidates will be expected to show some knowledge of the principles of management.

Buildings: siting, planning, layout, equipment and fittings.

Includes relations between the librarian, the architect and building consultants.

Staff: selection, training and qualifications, salaries and conditions, duties and deployment.

Includes some knowledge of the principles of personnel management.

Stock: administrative aspects of selection and acquisition, and of classification and cataloguing, access and control.

Special departments and collections; departmental libraries.

Includes administration aspects of technical departments (e.g. a bindery).

Relation to teaching and research.

Instruction of students: services to readers: regulations.

Co-operation.

3. Post-Graduate Professional Examination

Syllabus

Annotations

Section A, Paper G1. The Library in society (compulsory 3-hour paper)

Libraries and librarianship during the 19th and 20th centuries.

The sociological background and contemporary and future roles and developing attitudes to libraries in a changing society. Primarily this deals with the British Isles, but covers also developments elsewhere (e.g. United States) where significant.

The kinds of libraries: their place in society, their aims, functions and services.

The librarian's special responsibilities.

Library co-operation.

Section A, Paper G2. The Management of libraries (compulsory 3-hour paper)

The principles of management as applied to libraries.

The emphasis will be on principles and broad questions of policy. The candidate will be expected to show some knowledge of management problems in libraries of all kinds; as, for example, the principles of personnel management as applied to library staffing; establishments, division of staff, recruitment, in-service training; the administration of book-selection and acquisition; the departments of libraries, their administration and facilities. He will also be expected to show knowledge of the needs of the user in all types of library. He will also be offered a range of questions which will be answerable in ANY ONE of the following fields of choice:

The government of libraries, including significant legislative provisions, and financial considerations.

The organization of reference and information services in all kinds of libraries. Their fundamental role in libraries.

- (a) *Academic and legal deposit libraries.*
- (b) *Special libraries and information bureaux.*
- (c) *Public (municipal and county) libraries.*

Section A, Paper G3, Classification and cataloguing (compulsory 3-hour paper)

The organization of knowledge through classification schemes, catalogues and indexes.

This paper will include questions which are of general application, and questions which require the candidate to relate general principles to problems peculiar to particular kinds of libraries and materials. No practical questions will be set. The subjects covered include basic principles of classification, and the principal features of the major general schemes: the basic principles of cataloguing; descriptive cataloguing; subject cataloguing and indexing: the arrangement of catalogues and indexes.

(2) Bachelorship course のカリキュラム。

Polytechnic, Technical College の degree courses 及び University の学部課程の図書館学のカリキュラムは, L.A. の Pt. I, Pt. II のシラバス内容を包含して, それに各校の特殊性を加味し, プラスそれぞれの学内の他専攻の科目から一般教育, 外国語, 主題関連科目を選択してとるように構成されている。それぞれの特殊性を相当強く主張しているのが目につくほか, 履修年限も, 3年間と4年間というように学校によって1年間の違いがあり, また, 同様に強調しているのは, 数週間から数十週間の実習期間をカリキュラムの中に, 必修として課していることである。

例 1. Birmingham Polytechnic (B.A. in Librarianship, C.N.A.A.) 4-year Course.

1st year

1. Studies in Librarianship.

- (i) Contribution of Libraries to the Community.
- (ii) Organization and Control of Library Provision.
- (iii) Organization of Knowledge and Information in Libraries.
- (iv) Systematic Bibliography.
- (v) Modern Book Production.

2. Option 1. Literary Studies with Analytical Bibliography. or

Option 2. Economics with Statistics.

3. Modern Foreign Language. One of French, German, Russian.

2nd year

1. Studies in librarianship.

- (i) Contribution of Libraries to the Community.

(ii) Library Provision, Organization and Control.

(iii) Organization of Knowledge and Information in Libraries.

(iv) Systematic Bibliography.

2. Option 1. Literary Studies with Analytical Bibliography. or

Option 2. Economics with Statistics.

3. Modern Foreign Language. One of French, German, Russian.

3rd year

46週間の図書館実習が課され,

- (i) 図書館学に関する“研究プロジェクト”および
- (ii) 副専攻主題 (Option 1 または 2) に関する論文を作製する。

(i) (ii) の提出期限は, 第4学年の前期終了前。尚, 実習は, 実習先図書館及び指導教員によって評価され, 学生は実習報告を提出する。

4th year

1. Studies in Librarianship.

- (i) Contribution of Libraries to the Community.
- (ii) Organization and Control of Library Provision.
- (iii) Systematic Bibliography.

2. Option 1. Literary Studies with Analytical Bibliography. or

Option 2. Economics with Statistics.

3. Modern Foreign Language. One of French, German, Russian.

第4学年は, 副専攻主題に関連して, 図書館学, 情報科学の文献, 書誌調査に重点がおかれる。

例 2. Polytechnic of North London (B.A. in Lib-

arianship, C.N.A.A.) 3-year Course.

Preliminary Term (Sept.—Dec.)

1年以上の図書館実務経験のない者は、正規課程の開始前に4ヶ月の実習を課される。

Part 1. (Term 1—Term 4)

- (A) The 'Universe of knowledge' and subject study.
- (B) Social studies.
 - B1. Modern Britain.
 - B2. Study of society.
 - B3. Introduction to librarianship.
- (C) Communications studies.
 - C1. Communications studies.
 - C2. Systems of communication and control.
- (D) Complementary studies.
 - D1. Logic, mathematics, statistics.
 - D2. Research method.
 - D3. Languages.

Term 5. Library placement. (図書館実習)

Part 2. (Term 6—Term 10)

- (A) The 'Universe of knowledge' and subject study.

Options: Biology, Chemistry, Children's literature, English local history, Literary studies (English literature), Music.
- (B) Social studies.
 - B4. Social environment of libraries.
- (C) Communications studies.
 - C3. Management of libraries.
 - C4. Bibliographic organization.
 - C5. Indexing systems.
- (D) Complementary studies.

Studies in printed communications;
Literature and society;
Library history;
Descriptive bibliography and bibliographical cataloguing;
Palaeography and the use of original documents;
Personnel administration.

Term 11—Term 12. Dissertation.

カリキュラムの構成として、特に目立つのは新しい傾

向を強調、科目名にもそれが現われている。この他に各科目に関連して、図書館見学、実習が組み込まれているが、Birmingham に比較して実習期間の短かいのは、ロンドンという恵まれた環境から British Museum Library, National Lending Library をはじめとして、大学、専門、公共、学校のあらゆる図書館が近辺に存在し、実際の図書館活動に触れる機会が多いからでもある。Birmingham の1年間の実習は、むしろ例外といってもよい。

例 3. Loughborough Technical College (Bachelor's degree of Loughborough University of Technology) 3-year course.

Year I

Introduction to librarianship.
Communication principles; libraries and the media of communication.
Bibliographical control.
Organization of knowledge.
Government and control of libraries.
Associated academic subjects.

Year II

Library administration.
Introduction to information retrieval.
Literature of a selected subject area.
Associated academic subjects.
Foreign language.

Year III

- (a) Government publications.
 - Serial publications.
 - Medical literature and libraries.
 - Library architecture and planning.
 - Problems and current trends in administration of library and information centres.
 - International library services and resources.
 - Education services to adults.
 - Technical processes.
 - Special problems in cataloguing and classification.
 - The library in society.
 - History of libraries.
 - History of the book.
 - History of children's literature.
 - Materials for children and young people.

Instructional materials centres.
Palaeography and diplomatic.
Literature and librarianship of local studies.
Bibliography and librarianship of fine arts.
Information acquisition, handling, storage
and retrieval.

Data processing and the library.
Specialised information centres.

- (b) Bibliography of music literature.
Rare books.
Critical bibliography.
Archive administration.
Map librarianship.

Year III には、List (a) の科目より 4 科目を選択するが、List (a) から 3 科目、List (b) から 2 科目を選択して実習する。

Loughborough の特徴は、University of Technology と密接な関係があるため、工学系の図書館、情報学関係の科目が多く、入学資格として、数学の A. Level の証明が特に要求されている。

また、伝統的に、児童関係の科目はよく知られている。シラバス中には、特に実習について触れていないが、実習及び見学は、他校同様必修として課されている。

- 例 4. The Queen's University of Belfast. (Diploma in Library and Information Studies)
2-year course.

Part 1.

- (a) One first-year subject for the degree of BA, BSc. or BS (Econ).
(b) Organisation and retrieval of information.
(c) Bibliography and reference work.

Part 2.

- (d) Libraries in their social setting.
(e) Management of libraries.
(f) Bibliography of a subject area (i.e. humanities or social sciences, or sciences and technology).
(g) either g(i) or two of g(ii-viii)
(i) Palaeography and diplomatic; and archive administration.
(ii) Historical and analytical bibliography.
(iii) History of libraries and librarianship.
(iv) Library service for young people.

- (v) Principles of information science and library automation.
(vi) Descriptive bibliography and indexing.
(vii) Library buildings.
(viii) Bibliography and librarianship of Irish history and literature.

この他、実習見学が課せられているが、その期間は、シラバスに明記されていない。履修期間は、最短の 2 年間であり、Diploma を与えているが、内容的には、Association Courses と同程度ではないかと思われる。L. A. の Pt. I, Pt. II 試験は免除される。

(3) Post-Graduate Courses のカリキュラム。

大学院正規の 1 年課程で、College of Librarianship Wales, London では、Post-Graduate Diploma を与え、Sheffield, Belfast では Master の Degree を与えている。

- 例 1. College of Librarianship Wales. Aberystwyth. (University Post-Graduate Diploma)

1. Studies in library management.
The library in society.
Management studies in library and information work.
2. The Organisation of knowledge.
The organisation of knowledge in libraries.
Information system theory.
3. Bibliographical studies.
The sources of information.
Subject bibliography.
4. One of the following:
 - (i) History of libraries.
 - (ii) Libraries and librarianship of Wales: an area study.
 - (iii) Palaeography and archive administration.
 - (iv) Communications and the mass media.
 - (v) Comparative librarianship.
 - (vi) Literature and libraries for young people.
 - (vii) Physical bibliography.
 - (viii) Historical and analytical bibliography.
 - (ix) Physical and historical bibliography (Wales)
 - (x) Computers and mechanization in libraries.
 - (xi) The methodology of research and its presentation.

(xii) Construction and maintenance of index languages.

(xiii) Testing and evaluation of information retrieval systems.

この他に実習見学が課されているが、期間は明記されていない。

ウェールズの国立大学に設置されているという地域性から、ウェールズの地域研究が、重要科目として含まれている。

独立の図書館学カレッジであり、科目の漸新さからも推察できるように、情報検索の機械化、索引方式の理論的研究、開発の面に特に力を入れている。また、僻地に所在するというハンディキャップにかかわらず、英国では国際的交流の最も盛んな図書館学校としても知られている。

例 2. London University College (Diploma in Library and Information Studies)

1. Historical studies in librarianship.
2. Historical bibliography.
3. Subject bibliography: research sources in general and special fields.
4. Cataloguing.
5. Classification.
6. Management studies and statistical methods in library and information work.
7. The study of reading.
8. One of the following:
 - (a) Palaeography and diplomatic of English archives.
 - (b) Oriental and African bibliography, with special reference to an approved field of study.
 - (c) The literature of pure and applied science: communication problems, information systems.
 - (d) Printing and book production.
 - (e) Manuscript studies.

伝統的な図書館学の内容を最も強く打ち出しているカリキュラムである。Diploma of Archive Studies のカリキュラムと併せ検討すると、より明確になるのであるが、ロンドン大学の図書館学校及びその周辺には、この分野の権威者が多く存在している。

例 3. Post-Graduate School of Librarianship and

Information Science. The University of Sheffield. (M.A. in Librarianship, M.Sc. in Information Studies).

The M.A. Syllabus.

- (i) The nature and needs of the communities served by libraries and information services of various kinds. Emphasis on academic and public library communities.
- (ii) The sources of information. General and special fields.
- (iii) Communication of information. Cataloguing, Classification, and the mechanised handling of information. A short basic course on computers and their applications. Management of library and information services.
- (iv) Optional courses:
Library surveys, smaller academic libraries, comparative librarianship, mechanised record handling and computer programming.

The M.Sc. Syllabus.

- (i) Generation and use of information:
Such topics are included as the study of particular industries, the study of information flow in engineering development and design groups, the problems of innovation and the information needs of academic and other communities.
- (ii) Information resources:
The main emphasis on the information sources and resources of science and technology.
- (iii) Communication of information:
Organisation of information, and systems and services. Such topics are included as classification and indexing, information storage, retrieval and dissemination, management, operational studies and computer programming.
- (iv) Optional courses:

Particular aspects of the uses of computers in information work:

M.A., M.Sc. の両コース共このシラバスの他に、実習と見学を課し、特に、演習授業の意義を強調している。この図書館学校は、大学院課程のマスターコースだけを設置し、特に情報関係の専門家養成に重点をおいているのが特徴である。

(4) Thesis courses:

M.A., M.Sc., M.Phil., Ph.D. の Thesis courses は、専門の研究者を対象とするもので、例外を除き、特に Syllabus は一般には発表されていないので、ここでは省略する。

以上が図書館員教育及び図書館学教育のカリキュラムの代表例であるが、英国のこの分野での専門教育の特徴として、特に強調して触れておくべきことは、図書館活動の実際を体験させることを、正規の教育の一部として課している点である。入学資格として一年以上の実務経験を必要とする他に、入学後に相当長期間の実習が課され、また、各科目毎に演習的要素が相当の時間数を占めている。その他に、図書館の見学が、必須とされ、国内の代表的図書館のみならず、春休みや、夏休みの期間、時には、学期の一部を割いて、国外の図書館見学旅行が課されるなど、徹底した実際的な教育が行なわれている。

E. 教育方法及び教員

教育方法は、シラバスに基づく通常の講義の他、セミナー、個人指導の方法がとられている。特筆すべき教育方法としては、Tutorials という徹底したマン・ツー・マンの個人指導が行なわれていることである。アメリカや日本の大学以上に、学生の自主性が尊重され、教室で「出欠をとる」という風景はほとんど見られないが、セミナーでの発表、個人別のプロジェクトの進具合などは厳しくチェックされている。特に試験成績やレポートの採点は、厳正を極めるもので、従って学生の学習態度は真剣そのものである。

この様な、徹底した個人指導を行ない、しかも、多方面に及ぶ図書館・情報学の教育を行なうためには、当然多人数の教員が必要になる訳であるが、理想的実例を若干挙げてみると、アメリカや日本の図書館学校の教員数に比較して、目を見はるべきものがある。例えば、Polytechnic of North London では、340名の学生に対して42名の専任教員と3名の図書館職員を擁し、College of Librarianship Wales では、400名の学生に対して、36名の専任教員と10名の図書館職員を擁してい

る。この2校は、特に大規模な図書館学校の例であるとしても、学生数100乃至200名程度の中規模な Birmingham, Ealing (London), Loughborough, New Castle の図書館学校の場合にも、20名以上の専任教員を擁している。これらの教員のほとんどすべてが、当然のことながら、A.L.A. あるいは F.L.A. の称号を持つ経験豊かな図書館員であり、過去20年間における図書館学教育の急激な発展により、教職に魅力を感じ参加した有能な図書館人である。これら専任教員の他に、各図書館学校とも相当数の専門家を兼任教員あるいは非常勤講師として擁している他、外国の図書館学校、図書館、情報センターから訪問教授を招聘している。

F. 研究

講習会に始まった図書館員教育が、やがて Technical College や Polytechnic の専門教育に発展し、やがて大学も、図書館学教育にその門戸を開放するようになると、図書館学及び情報学の進歩発展のために、当然研究が始められるようになった。しかも、この研究のイニシアティブが、古い伝統ある大学でなく、新設の大学、あるいは、専門教育を主目的とする Polytechnic によってとられたところに意義がある。この意義は、筆者が直接訪問し面接した Polytechnic of North London, Birmingham Polytechnic あるいは College of Librarianship Wales などの専任の研究員達によって異口同音に強調されていることであり、従来の大学が余りにも伝統を重んじすぎ、研究は大学のみに与えられた特権であるとの考え方を改めさせるのにも一役買っている。これは何も、図書館・情報学に限ったことではないが、Department of Education and Science, OSTI (Office of Scientific and Technical Information), Social Science Research Council その他の機関または財団が Polytechnic における研究に資金援助をしていることから、社会全体の認識の傾向といえるのである。図書館学校における研究に関しては、上記のグラントの他、Foundation of Scientific Researches, U.S.A., をはじめとする外国の財団、UNESCO などの国際機関よりの援助、また国内の大学あるいは地域の図書館システムが共同研究を申し込むなど、非常に活発である。

全図書館学校が、独立の研究部門を持ち専任の研究員を置くところまで至っていないが、大規模な図書館学校では、独立の研究部門と、教職に直接責任を持たない専任の研究員と研究助手を擁している。例えば、College of Librarianship Wales では4名、Polytechnic of

North London では11名, London University では3名, University of Sheffield では5名が専任の研究員である。この研究員は、図書館学校の正規の Faculty Staff が大部分であるが、Sheffield の例のように OSTI からの出向研究員を含む場合、あるいは、正規の研究助手の他に、Polytechnic of North London の例のように、学生助手を員数外に採用する場合もある。

研究プロジェクトは、外部からの依頼によるものと、内部の研究員及び教員の自主的研究によるものと、関連機関との共同研究によるものとがある。研究の成果は、外部からの依頼によるものは報告書が作成され、内部の自主研究あるいは共同研究によるものの多くは、LA, ASLIB, その他の出版活動を通じて発表されている。また、現在行なわれている研究プロジェクトの内容及び進行状況は、各校の Research Bulletin に発表されている。最近の研究プロジェクトを例によって示せば、次のようである。

College of Librarianship Wales (*Research Bulletin* No. 2, Jan. 1972)

1. The Burgess-Phillips Collection of early printed tracts.
2. Anatomy of book provision in public libraries.
3. College of librarianship Wales/Salop Education Committee Resource Centre research project.
4. Censorship in public libraries from 1900: a study of history of current practice.
5. A study of the "underground" or "alternative" culture with particular reference to value and ideology.
6. Information Science Index language test.
7. KWIC Index Program for the ICL/ELLIOTT 4130.
8. The public libraries of outer London 1960-1970: a financial and statistical study.
9. The purchasers of books: april 1970-71.
10. Self-instructional texts in library and information science.
11. Survey of Welsh library resources. (Jan. 1971-)
12. Title abbreviation formula feasibility (TAFF) project (Oct. 1970-)
13. Universal Decimal Classification: history, present position and future of a large scheme.
14. Communication studies (1972-1974)
15. The development of the economic boycott by black American in the period 1955-1963. (Oct. 1971-Oct. 1973)
16. Computer filing of MARC records.
17. The United Kingdom and the information, or documentation services of developing countries.
18. Public libraries and Asian immigrants.
19. Survey of Welsh-American serials.
20. Comparative costs of catalogue card production methods.
21. Application of computer techniques within CLW Library.
22. The unestablished writer.
23. Guide to Middle Welsh prose texts (Oct. 1971-)
24. A glossary of library terms in Welsh (Oct. 1971-)

School of Librarianship, Polytechnic of North London (*Research in Progress*. No. 9, Mar. 72)

1. A common index language for the construction industry.
2. Revision of Bliss Classification. (June 1969-June 1972)
3. Public library service in the UK since 1919. (Sept. 1969-July 1972)
4. DISISS—in collaboration with Bath University (Jan. 1971-Dec. 1973)
5. Interlex (Intermediate lexicon for information science). (Aug. 1971-Jan. 1973)
6. Programmed instruction in practical subject indexing. (Sept. 1971-Sept. 1973)
7. Hillingdon Project (formerly Co-operation between public and academic libraries.) (Dec. 1971-Nov. 1973)
8. Wessex Regional Hospital Board: Medical Sciences Classification. (Aug. 1971-July 1972)
9. "Floating" research: Coordinating research for different research projects.
10. The Warwick Project.
11. Aslib/PNL Interdisciplinary literature project.

イギリスにおける図書館学教育の現状

Postgraduate School of Librarianship and Information Science, University of Sheffield. (*Current Research Projects*, May 1972)

1. Cataloguing and classification and associated procedures in British University Libraries.
2. Computer storage and searching of chemical structures.
3. Use of variable length, equifrequent character strings in information retrieval systems.
4. Department of Education and Science. Local library cooperation project.
5. Biomedical information project.
6. Testing a manual for the preparation of machine-readable bibliographic descriptions.
7. Staffing for library and information work.

G. 学 生

比較的最近に至るまで、必要な中等学校の科目合格証明書だけあれば、講習会、通信講座あるいは独学で、L. A. の専門職試験を受けることが可能であった。このような資格取得の方法は個人的には便宜であっても、たまたま中等学校卒で図書館に働いているというだけの理

由で、あるいは、講習及び受験で資格が取れるからという理由で、人格的に資質的に、また能力的に図書館の専門的職務に適さない者まで、資格を取得し、あるいはそのために無駄な努力を払うというような実例が過去には多く認められたらしい。

このような方法は、図書館のレベル向上のために望ましくないばかりか、個人的にもフラストレーションの原因を作っていたのだが、社会の進展と共に、図書館は、新しい高度の情報専門家を必要とするようになり、また、それと時を同じくして、英国における高等教育の急速な普及が始まり、専門的職能人を養成する Polytechnic 及び Technical College の増設、その一部として図書館学校が増設され、正規の高等教育として図書館学教育が展開されるようになった。従って、将来の図書館員、情報システムのスペシャリストのための望ましい学生の選択、長期の集中的教育が可能になったばかりか、様々な教授方法の展開と、各分野の専門家集団による教育のために、講習、独学時代の図書館員に比較して、図書館学校の卒業生は、人格、教養、専門的能力の何れの面においても、レベルの高い人材となったのである。L. A. の General Professional Examination (Pt. I, Pt. II)

表 1 1972/73 年度募集予定学生数

L.A. Examinations			University or C.N.A.A.			
School	Post-Grad	Non-Grad	Non-Grad	Post-Grad	First Degree	Total Intended
Aberdeen (RGI)	15 (15)	35-40 (35)	12 (12)	120 (100)	60 (60)	50-55 (50)
Aberystwyth (CLW)		40-50 (78)				220-230 (198)
Belfast (Q.U.)						32 (32)
Birmingham (P)	25 (20)	80 (60)			35 (30)	140 (110)
Brighton (P)		40 (40)	36 (35)	36 (35)	35 (35)	40 (40)
Glasgow (S.U.)						71 (70)
Leeds (P)	30 (35)	40 (40)			65 (60)	135 (135)
Liverpool (P)	30 (30)	0 (40)			24-30 (0)	54-60 (70)
London (Ealing T.C.)	45 (40)	100 (100)	90 (85)	90 (85)	25 (25)	145 (140)
London (P.N.L.)		60 (85)				175 (195)
London (U.C.L.)						35-40 (45)
Loughborough (T.C.)	35 (35)	90 (90)			25 (25)	150 (150)
Manchester (P)	30 (28)	50 (50)	42 (44)	42 (44)	30 (30)	110 (108)
Newcastle (P)	35 (30)	40 (40)				125 (100)
Sheffield (Univ)					50 (30)	42 (44)
	245 (233)	575 590 (658)	12 (12)	343 348 (329)	349 355 (295)	1524 1550 (1487)

この表では図書館学の初級資格をとろうとする者のみをかぞえた。

表2 1972年3月現在の正規学生数

	Full-time teaching staff	L.A. Examinations			University Qualifications						
		P. Grad*	Non-graduate		Dipl: (Qualifying course)*	Higher degrees		First degrees			
			Yr 1*	Yr 2		Post Qualif		Yr 1*	Yr 2	Yr 3	Yr 4
Aberdeen (RGI)	8	15 (13)	35 (41)	30 (23)	99 (73)			49 (52)	37 (37)	33 (25)	5 (0)
Aberystwyth (CLW)	39		89 (114)	99 (85)	15G (19)	1 (1)					
Belfast (Q.U.)	4				8NG (14)						
					13NG (11)						
Birmingham (P)	20	24 (19)	76 (41)	45 (84)							
Brington (P)	6		44 (43)	32 (36)							
Glasgow (S.U.)	10				34 (32)	10 (7)		37 (36)	22 (18)	17 (9)	
Leeds (P)	27	38 (32)	37 (43)	38 (53)							
Liverpool (P)	13	28 (27)	39 (58)	57 (57)							
London (E.T.C.)	20	37 (40)	83 (93)	95 (96)							
London (P.N.L.)	42		91 (106)	111 (99)	104 (78)	41 (41)					
London (U.C.L.)	7				46 (41)						
Loughborough (TC)	22	29 (30)	76 (110)	100 (87)				23 (17)	16 (14)	14 (23)	
Manchester (P)	21	27 (29)	53 (49)	46 (39)							
Newcastle (P)	20	25 (28)	41 (58)	51 (62)							
Sheffield (univ)	7					38 (44)	11 (0)				
	266	223 (218)	664 (756)	704 (789)	319 (268)	38 (44)	63 (49)	109 (105)	75 (69)	64 (57)	5 (0)

	C.N.A.A. Degrees				Students		
	Yr 1*	Yr 2	Yr 3	Yr 4	M	F	Total
Aberdeen (RGI)					19	61	80 (77)
Aberystwyth (CLW)					101	310	411 (386)
Belfast (Q.U.)					12	25	37 (45)
Birmingham (P)	31 (19)	17 (20)	20 (19)	19 (0)	62	170	232 (202)
Brington (P)					18	58	76 (79)
Glasgow (S.U.)					29	91	120 (120)
Leeds (P)	L38 (28)	27 (29)	29 (19)		49	205	254 (244)
	I 20 (19)	15 (11)	12 (10)				
Liverpool (P)					29	95	124 (142)
London (E.T.C.)					61	154	215 (229)
London (P.N.L.)	17 (18)	14 (0)			109	228	337 (301)
London (U.C.L.)					37	50	87 (82)
Loughborough (TC)					37	221	258 (281)
Manchester (P)	27 (25)	22 (23)	23 (0)		58	140	198 (165)
Newcastle (P)	26 (0)			6 (0)	30	119	149 (154)
Sheffield (univ)					18	31	49 (44)
	159 (109)	95 (83)	84 (54)	25 (0)	669	1958	2627 (2551)

* 印欄の数を合計すると 1971/72 年度の新入学生総数となる。

は、依然として原則的に一般に受験資格はあるというもの、現実的には、何れかの図書館学校に在籍しない限りは、年と共に合格が困難になる傾向を明らかに示しつつある。

現在、図書館学校に入学するには、二つの経路があり、

その一つは、図書館員に採用されて仮入学する経路であり、他の一つは、中等学校卒業後あるいは大学学部卒業後直接入学する経路である。何れの経路を経て入学するにしても、現在の図書館学校には、中等学校卒と大学卒が混合して勉学しているのである。筆者の図書館学校訪

イギリスにおける図書館学教育の現状

の印象では、学生 $\frac{1}{6}$ 乃至は $\frac{1}{4}$ が、大学卒であろうと思われる、また、男女の比率は、これまた印象的に男子学生2～3に対して女子学生8～7の感じであった。

15の図書館学校の学生数については、1972年3月現在で L.A. の Education Committee が調査したデータが表1から4に示されている。

表 3 在籍学生数と終了者数

(a) 在籍者数

1967/8	1968/9	1969/70	1970/71	1971/72	1972/73
1431	1632	1499	1500	1512	1524- 1550 (est)

(b) 終了者数

この表では1968年から1971年までの各年の L.A. 最終試験終了者および試験免除の試験に合格した者の数をあげ、1972年および1973年については推定数をあげた。

1968	1969	1970	1971	1972	1973
1255	1415	1441	1435	1445	1300

表 4 学生の図書館勤務経験の有無

	Graduates	Non-Graduates
無経験者	108(95)	451(483)
入学前に学校所定の 実習を受けた者	19(12)	23(123)
入学前に勤務経験の ある者	390(376)	1055(1154)
	517(483)	1529(1760)
外国人学生	36 g	75 ng

括弧内はすべて1971年3月現在の数字である。

学生に関して最も羨しく思われるのが、図書館学校の場合には、ほとんどすべての学生が奨学金によって勉強していることである。これはすべて Education Acts (教育法)に基づく措置であるが、図書館を通じて入学した者は、その図書館より給料の金額或いは一部が支払われ、直接学校卒業後入学した者は、出身地の教育委員会の奨学金によって学費が支払われているのである。この学費には、授業料及び勉強に必要な生活費が含まれている。

V. 結 論 (個人的印象)

広大なキャンパスの中に、ゆったりしたスペースをとって建てられたアメリカの図書館学校、例えば、University of Washington, UCLA., University of Illinois, University of Chicago, University of Michigan, Western Michigan University, その他の代表的な図書館学校を訪問した後で見るイギリスの図書館学校は、第一印象としては、それ程魅力的に見えなかったのは確かである。しかし、その反面、大学図書館にしても、公共図書館にしても、日本のそれ等と同じように、どちらかといえば、古く狭い建物や施設に、何となく日本に近さを感じて、安堵感のようなものも感じられるのだった。しかし、訪問を重ね、時間をかけて見るうちに、そこには、なみなみならぬ気魄がみちみちているのが感じられた。過渡期にあるイギリスの教育全体は、旧制度と新制度のさまざまに混合した、一見雑然と見えるほどのバラエティーに富んでいるが、その全体に、教育にかかる国家全体の執念が感じられるのだった。図書館学校の場合も、レベル、規模、陣容さまざまであったが、一様に、清新の気と意欲と自負心にみちていたのは、遙かな異国からの訪問者のひがみ目ではなかったと思う。日本の各種学校かとの印象を抱かせたロンドン西郊の Ealing Technical College, 古びた偉容とかびの臭いに厭負された London University, 町の1ブロックを占める4階建の校舎の一部かと思われたのが、意外に、その建物全体がそうであった Polytechnic of North London の図書館学校、近代工業都市のスパゲティ・ジャンクションと呼ばれる縦横無尽に交差する高速道路のインターチェンジのそばにそびえる12階校舎の Birmingham Polytechnic, そして、ウェールズの美しいライドルの谷とカーディガン湾を見下す、この世と思えない静かな緑の丘に建つ College of Librarianship Wales (学生の宿舎の一部は、海を見下す森の中の、旧城主の館だった。) その一つ一つが持つ個性と自主性は、ほぼ統一された姿勢を持つアメリカの図書館学校とは際立った特徴として、私の目に写った。確かにアメリカほどの物質的豊かさはなく、技術的面で遅れはあるとはいえ、教育内容の濃度と緻密さにおいては、勝るとも劣らぬと思われた。特に、現実の図書館の要求と進歩に併せていく実際的な教育と、将来の発展の指針を打ち出す研究の両面は、図書館学校の在り方の理想を示していると思われた。特に教員の実験的経験の豊かさは、日本の図書館学校はもちろ

ん、アメリカの図書館学校の教員のそれとは比較にならないものであった。実務の経験のない Ph. D. 学者が多すぎると批判されはじめたアメリカの図書館学教育界の問題と同様、日本の図書館学教育界も反省すべき点ではないかと思われる。

そして、イギリスの図書館学教育は、急速な発展の中で、確実に水準を高める方向に動きつつある。関係者のいうように、やがては Association courses が姿を消し、Degree courses と Post-graduate courses に統一されるだろう。しかも、図書館員の過剰生産を起さないようにバランスをとりながら増設発展を続けるだろう。なぜなら、それは、政府の施策と国民の税金によって保障されているからである。この保障によって、イギリスでは日本では信じられないような事も起りつつある。図書館が普及しすぎたため個人が本を購入せず、本の売れ行きが落ちた。そのために、図書館は、一般の個人購読者よりも高値で本を購入することになった。政府の保障で。政府はこうにして、図書館と出版産業の両者の振興を計るのである。

教育の社会保障は、図書館学校の学生のほとんどすべてが、生活費を含む給費生であり、大学生の 90% 以上が、奨学生であるという事実からも、その徹底ぶりがうかがえるのである。

「世界の未来は、高度に教育された国家のものである。」といい切った政治家は、現実にはそれを実行しているのである。私の個人的印象では、イギリスは老大国とは、とても思われたい。

注 1. General Certificate of Education.

1951年に General School Certificate 及び Higher School Certificate は、この G.C.E. に変った。G.C.E. は “ordinary”, “advanced”, “scholarship” の三段階に分れ、O level の試験は16才、A level の試験は18才で受けられる⁷⁾。

注 2. Ordinary National Diploma.

National Certificate の一種で、カレッジのパートタイムのコースで学習した技術者の資格で Ordinary National Certificate は、2年～3年のカレッジ課程で16才～19才でこの O.N.C. の受験資格がある⁸⁾。

注 3. Certificate of Secondary Education.

G.C.E. の “Ordinary” level よりやや低く評価される資格で、地域毎の試験で発行される。1960年以降有効となった⁹⁾。

注 4. Higher National Certificate (H.N.C.).

前記の O.N.C. 取得後、更に2年間の教育を必要とする資格で、合格すれば、専門協会の正規会員の資格が与えられる。O.N.C., H.N.C. の二つの National

Certificate は、1921年以来発行されている¹⁰⁾。

引用文献

- 1) Dent, H.C. *The educational system of England and Wales*. London, University of London Press, 1969. p. 34.
- 2) *Ibid.* p. 190.
- 3) *Ibid.* p. 35-36.
- 4) Open Access: a news sheet for West Midland Librarians. Vol. XX New Series No. 2. Winter 1972. p. 2.
- 5) Library. College of Librarianship Wales. Aberystwyth. 1972. p. 2.
- 6) Saunders, W.L. *Librarianship in Britain today*. London, The Library Association, 1967. p. 5.
- 7) Wardle, David. *English popular education, 1780-1970*. Cambridge University Press, 1970. p. 164.
- 8) Dent, *op. cit.*, p. 175.
- 9) Wardle, *op. cit.*, p. 163.
- 10) Dent, *op. cit.*, p. 175.

参考文献

- Dent, H.C. *The educational system of England and Wales*. London, University of London Press, 1969.
- The Library Association. *Students' handbook*, 1971-1972. London, The Library Association, 1971.
- Saunders, W.L., ed. *Librarianship in Britain today*. London, The Library Association, 1967.
- Wardle, David. *English popular education, 1780-1970*. Cambridge, University Press, 1970.
- 1972 Prospectuses of the following Schools of Librarianship:
- ABERDEEN: School of Librarianship, Robert Gordon's Institute of Technology, Aberdeen.
- ABERYSTWYTH: College of Librarianship Wales, Aberystwyth.
- BELFAST: School of Library and Information Studies, The Queen's University of Belfast.
- BIRMINGHAM: Department of Librarianship, Commerce Centre, Birmingham Polytechnic.
- BRIGHTON: School of Librarianship, Polytechnic.
- GLASGOW: Department of Librarianship, The University of Strathclyde, Glasgow.
- LEEDS: Department of Librarianship, Leeds Polytechnic.
- LONDON: School of Librarianship, Ealing Technical College.

イギリスにおける図書館学教育の現状

LONDON: School of Librarianship, Polytechnic of North London.

LONDON: School of Library, Archive and Information Studies. University College London.

LOUGHBOROUGH: School of Librarianship, Loughborough Technical College.

MANCHESTER: Department of Librarianship,

Manchester Polytechnic, Faculty of Commerce.

NEWCASTLE: Department of Librarianship and Information Science, Newcastle-upon-Tyne Polytechnic.

SHEFFIELD: Post-graduate School of Librarianship and Information Science, University of Sheffield.